

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 自ら学び成長し、気持ちの良いあいさつができ、思いやりがある子ども										堺市立大泉小学校 校長 米澤 昭子		
令和6年度 重点目標 自分の言葉で自分の考えを伝えられる子の育成												
1. 「 自ら学ぶ子 」「 つくりだす子 」「 なかよくする子 」 ○ICTを活用しての一斉指導・個別最適な学び・協働的な学びをとおして自ら学びを進められる子の育成 ○前期・中期・後期を意識した子どもの育成 ○「本物との出会い」をとおしたキャリア教育の推進 ○グリーンスクールプログラムをとおした規範意識の向上 ○カワセミはがきを活用した自尊感情の向上 ○デジタル教材やNSを活用し、英語を話そうとする態度の育成												
2. 「 情熱 」「 指導力 」「 教育公務員としての自覚 」 ○大泉学園授業スタンダードの活用 ○教科の専門性を活かし、児童生徒が主体的に学べる授業の推進 ○教科の特性を活かし、9年間を見据えた指導 ○妥当性・信頼性の高い学習評価・正確な進路対応 ○コンプライアンスの遵守 ○定時退勤日の遵守・時間外在校等時間の削減・ICTの活用による働き方改革												
3. 「 安心・安全 」「 チーム力 」「 未来をつくる 」 ○人権尊重の精神に立った教育活動 ○個に応じた特別支援教育の充実 ○「どの子にもわかる授業づくり」による居場所づくりや仲間づくり ○いじめの未然防止・早期発見・早期解決 ○危機管理体制の徹底 ○児童生徒の健康管理の推進 ○中学校給食モデル校としての実践 ○学校・家庭・地域・関係機関とよりよい関係づくり												
「 確かな学び 」の現状 昨年度は、「思考力」に焦点を当て、対話的な学びを取り入れたり、RSTやICTを活用したりするとともに、「大泉授業スタンダード」を活かした授業研修に注力した。また、学校独自の大泉漢字・計算検定や自学ノートなど、家庭学習の継続的な取組により、基礎学力の定着もめざしてきた。今年度は、RSTの結果をもとに協働的・対話的に学習を進めることで、自らの考えを伝えあいながら思考力を高めていきたい。また、「学びのコンパス」と「大泉授業スタンダード」の共通性をいかして、児童生徒が学習をより自分事としてとらえるよう、児童生徒にゆだねられる場面を授業で設定していきたい。						「 豊かな心・健やかな体 」の現状 昨年度は、小学校の連合運動会が実施され、他校との交流を通して体力の向上の良さを感じることができた。体育の授業でも継続して学校水泳やかけ足・なわとびの時間を設けるなど、体力の向上に取り組んだ。今年度もかけ足・なわとび・大縄などを取り入れ、体力の向上をめざしたい。また昨年度、「カワセミはがき」による「いいとこ見つけ」や、「レジリエンス」を育む授業を行い、子どもたちの自尊感情を高めていった。その結果、学校評価アンケートの「グリーンスクール」項目において、全学年80%以上の肯定的回答が得られた。今年度も、「カワセミはがき」などの取り組みを行い、互いに認め合える集団づくりに取り組んでいきたい。						
大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認(◎、○、△) (11月)	達成状況(年度末)				
								自己評価(◎、○、△)		学校関係者評価(◎、○、△)		
確かな学び	思考力の育成	社会で生きてはたらく「思考力」の育成を軸とした9年間を豊かにつなぐ教育活動の実践	●★「思考力」に焦点化して、本校独自の「大泉授業スタンダード」に基づき、授業展開など指導法のさらなる工夫により、考える力のいっそうの育成をめざす。 ★大泉漢字計算検定、朝の学習、家庭での自学ノートの取組を通して、漢字力や計算力など、基礎学力の定着を図る。	「思考力」項目で肯定的回答75%以上	学校評価アンケート (教員用)	1月	○	研究授業等に指導主事を招へいし、授業づくりや指導方法改善について取り組んだ。また、研究授業だけでなく、スキルアップ週間でも教員同士で授業観察を行い、学び合っている。	○	・教職員に対する学校評価アンケートの「子どもは、自分で考えたことを『思考力ファイブ』を意識して表現しようとしている。」の項目では、肯定的回答が86%だった。「大泉授業スタンダード」や「思考力」に焦点を当てた授業研修の成果が出ていると考える。 ・大泉検定では、全学年90点以上には満たなかったが、年間を通してほとんどのクラスで平均85点以上の結果を残すことができた。	◎	・「思考力ファイブ」を使った指導が定着していることは評価できる。 ・思考力の表現は難しいが、学年が上がるにつれ、自分の言葉での発表・意見する姿を見て、子どもの意識は育っていると感じる。
	自主性・創造性の育成	「夢に向かって自分らしく輝く子」の育成	★ICTを活用した「思考力」の育成に取り組むとともに、「個別最適な学び」や「協働的な学び」が実現する授業を行う。 ★異学年交流や出前授業など、他者との関わりの中から夢や目標を持ち、ドリームファイルを活用することにより、「自ら学ぶ子」「つくりだす子」「なかよくする子」の育成をめざす。	「ICT活用」項目で肯定的回答80%以上 大泉ドリームファイル(キャリアパスポート)の作成 「キャリア教育」項目で、肯定的回答80%以上	学校評価アンケート (教員用) 学校評価アンケート (児童用)	1月 7・1月	○ ○	タブレットを使って自分の意見をまとめたり、情報の共有、発表ノートを利用するなど、個別最適な学び・協働的な学びに向けて活用している。また、研究授業を通して、ICTの活用方法についても研修を進めている。 生活・総合的な学習の時間、行事、キャリア教育だけでなく、異学年交流に加え、期別による活動を行い、取り組んだことを大泉ドリームファイルに残している。	○ ○	・教職員に対する学校評価アンケートの「ICTを活用して、授業をしたり、課題を出したりしている。」の項目では、肯定的な回答が100%だった。各教員が必要に応じてタブレットなどを活用し、個別最適な学び・協働的な学びが実現する授業を行っていると考える。 ・児童・生徒に対する学校評価アンケートの「自分が将来に向かって努力している」の項目では、肯定的回答が1～4年生で90.7%、5～9年生で81.3%であった。前年度と比べて5%前後伸びている。早期からのキャリア教育や異学年交流により、自分の目標に向かって努力しようとする姿勢が身に付いてきている。	○	・ICTの活用はメリットとデメリットがあると思う。たくさん情報をまとめる力だけでなく、正しく判断する力が必要になってくる。ICTはあくまでもツールとして使いこなせる力を養ってほしい。 ・自分の将来に夢をもって努力していくことが、毎年、少しでも前進すればよいことだと思う。
豊かな心・健やかな体	豊かな心	互いに認め合える集団づくり	●★「カワセミはがき」を年間通して活用し、「いいとこ見つけ」に取り組んだり、「レジリエンス」の授業を行ったりすることで、子どもたちの自尊感情を高めていく。 ★同一時間に道徳の時間を設定し、様々な教員が授業をし、授業を参観できるようにする。また、道徳の授業を保護者へ公開するなど、児童の豊かな人権感覚の向上をめざす。	「グリーンスクール」項目で肯定的回答75%以上 「豊かな心」項目で肯定的回答85%以上。	学校評価アンケート (児童用)	1月 11・1月	○ ○	文化発表会などの大きな行事を中心に「カワセミはがき」の交流を行い、子どもたちの自尊感情を高める活動を行っている。 人権教育、道徳教育を通じて、豊かな心の育成に取り組んでいる。11月の土曜参観では全クラスで道徳の公開授業を行った。	◎ ◎	・児童生徒に対する学校評価アンケートの「自分にはよいところがある」においては、肯定的回答が1～4年生で92%、5～9年生で88.4%と、前年度より伸びている。また「クラスの友だちやみんなにグリーンな行動で接することができる」においては1～4年生は87.4%、5～9年生で92%の肯定的回答が得られた。カワセミはがきによる「いいとこ見つけ」など継続的に行ってきた取り組みの成果が伺える。 ・道徳では、「生命の大切さや社会ルール、人としての生き方について、自分で考えている。」では、1～4年生、5～9年生ともに92%の肯定的回答が得られた。今後も平和学習や障がい理解教育など系統立てて実施し、児童の豊かな人権感覚を今後も育んでいきたい。	◎	・多くの子が「自分の良さ」を評価しており、自己肯定感を持っていることに安心している。 ・中学生がともに学校生活をしているので、交流する機会が多くあり、優しい心が育まれていると思う。 ・継続した取り組みが力となっている。 ・これからも尽力を期待します。
	健やかな体	体力向上と健全な生活習慣の定着	★体育の授業でかけ足やなわとびなど、持久力を高める運動を取り入れ、体力向上を図る。 ★はつらつカードや3ピカチェックの活用で、家庭との連携を深め、基本的な生活習慣の定着を図る。また、食育を通じて健全な食生活に関する知識や技能を身に付け、食事のマナーや食育を通じた人間関係形成能力を養う。	「体育」項目で肯定的回答75%以上。 「生活習慣・健康」項目で肯定的回答75%以上。 「食育」項目で肯定的回答75%以上。	学校評価アンケート (児童用)	1月 7・1月	○ ○	11月ごろから、授業でかけ足やなわとびなどの持久走を高める運動を取り入れていっている。 保健だよりで規則正しい生活習慣について定期的に啓発している。また、保健給食委員会の活動の一環として3ピカチェックを行ったり、集会で食育目標を全校に示したりするなど、基本的な生活習慣の定着を図っている。	○ △	・学校評価アンケートの「体育の授業、かけ足・なわとびなどで体力が向上している」においては、肯定的回答が1～4年生は92.0%だったのに対し、5～9年生は77.7%であった。今後も子どもに日常的な運動を習慣づけて、体力向上に努めたい。 ・学校評価アンケートの「はつらつカードを自分の生活改善に役立てている。」において、肯定的回答が1～4年生は89.7%だったのに対し、5～9年生は66.6%であった。中期・後期になると生活改善に対する意識が低くなっているため、今後も家庭への発信などを通して連携を続けていく。	○	・学校での体育の授業とともに、家庭での生活習慣を子どもの時から身に付けることが大切である。家庭との連携に力をいれてほしい。 ・色々と工夫されていることがわかりました。一層の推進を期待します。
小中一貫教育	小中一貫教育推進	小中一貫校として、学びと育ちの連続性あるカリキュラムを編成することで、9年間の系統的な指導体制を確立する。	●★学園の合同研修・研究を推進して、小中の教員が互いの専門性を学び合うことで授業力を高め、中学校卒業時を見据えた教育活動に取り組む。	学校評価アンケートの小中一貫の学校運営に関する項目で肯定的回答95%以上。	学校評価アンケート (教員用)(保護者用)	1月	○	学年交流、学園全体研修などを通して、小中の教職員が専門性を生かし、互いの授業力の向上に努めている。	◎	学校評価アンケートの小中一貫に関する項目では、教職員に95%以上の肯定的回答が得られた。校内の研修についてはスキルアップ週間を設け、小中分け隔てなく互いの授業を見せ合い、意見交換することができた。また、研究授業の事前検討会や評議会では、小学校低学年から中学校までの単元の系統についても確認することができた。	◎	・これからは小中の枠を越えた学び合いを深めてください。 ・小中間の教員が連携を取って、学校教育に取り組んでいること。これは小中一貫校としてのメリットを表現していると思う。
校長より(年度末) これまで取り組んできた、「思考力ファイブ」の取り組みに加え、ICTの活用を意識した学習形態や協働的な学びの機会を設けてきたことで、自分の言葉で自分の考えを表現できる児童の姿が見られた。また、様々な機会で自他の良さを認められるよう取り組んできた。今後も、小中一貫校の良さを生かし、児童生徒の総合的な学力を育んでいく。								学校関係者評価者から(年度末) ・いろいろと指導方法を工夫されて、児童の発達段階に応じた学習を行い、思考力の向上を図っておられる様子が伺えます。 ・子ども達から学年関係なく、色々なお友達の話をよく聞きます。その度に縦割り活動が活発なのだと感じています。上の学年の子の面倒見の良さ、それを受けて、自分達も下の子に優しくできる。素敵な流れがあると思います。少人数だからこそその穏やかさを感じます。				